



諸國
奇談

西遊記續篇

ル 3
3984
6



123
3989
6

兩遊地後編起目錄

碑い文え之の卷
ヲのかの嶼
曾そ根ね松しょう
扶た桑そう木ぼく
熊くま膽たん
孟もう宗そう竹ちく
毀くわい譽よ



次つぎ上の乃の渡わた
古ふる朴ぼく
小こ司の乃の木の佛ぶつ

流なが五ご藤ふじ
主ぬし物もの
邑むら鳩とむ

<99-1016>

新鐘を聴く

三之巻

嬉しむ

徐福

濁り酒

牛合

隠戸乃瀬戸

四之巻

那智の瀑布

出来時

嵐鳥

易氣

焼酎

饑饉

桂林

肥後乃毒水

豆腐怪

就乃玉

海水増減

五之巻

楓樹

綱引

奇器

高麗の子孫

酒

新画の梅

産婦

舞乃舞

西遊紀傳續編 目錄後

法苑珠林



西遊紀傳續編卷之一

碑文

唐古くは墓碑（たふら）に（たふら）小かぎ（たふら）に（たふら）楷書（たふら）法（たふら）塔（たふら）墓（たふら）法（たふら）を（たふら）お（たふら）堂（たふら）塔（たふら）
（たふら）古（たふら）碑（たふら）た（たふら）ど（たふら）多（たふら）く（たふら）石（たふら）碑（たふら）を（たふら）建（たふら）て（たふら）そ（たふら）の（たふら）城（たふら）子（たふら）宗（たふら）乃（たふら）江（たふら）を（たふら）七（たふら）統（たふら）
（たふら）孫（たふら）せ（たふら）る（たふら）事（たふら）多（たふら）し（たふら）日（たふら）本（たふら）七（たふら）近（たふら）事（たふら）ハ（たふら）別（たふら）と（たふら）そ（たふら）の（たふら）ま（たふら）ろ（たふら）あ（たふら）り（たふら）て（たふら）皆（たふら）人（たふら）
乃（たふら）之（たふら）子（たふら）紙（たふら）掘（たふら）翁（たふら）ふ（たふら）く（たふら）や（たふら）か（たふら）う（たふら）終（たふら）る（たふら）小（たふら）倉（たふら）を（たふら）な（たふら）み（たふら）乃（たふら）小（たふら）か（たふら）ま（たふら）ハ（たふら）
（たふら）名（たふら）久（たふら）壽（たふら）乃（たふら）あ（たふら）り（たふら）て（たふら）そ（たふら）の（たふら）扱（たふら）多（たふら）き（たふら）も（たふら）日（たふら）本（たふら）ハ（たふら）源（たふら）久（たふら）そ（たふら）ハ（たふら）後（たふら）ニ（たふら）通（たふら）
（たふら）う（たふら）て（たふら）ま（たふら）く（たふら）し（たふら）の（たふら）か（たふら）し（たふら）只（たふら）風（たふら）流（たふら）久（たふら）種（たふら）乃（たふら）慰（たふら）む（たふら）と（たふら）つ（たふら）と（たふら）つ（たふら）も（たふら）ハ（たふら）源（たふら）久（たふら）を（たふら）
（たふら）よ（たふら）も（たふら）い（たふら）ど（たふら）も（たふら）背（たふら）置（たふら）乃（たふら）事（たふら）を（たふら）み（たふら）ら（たふら）し（たふら）も（たふら）念（たふら）と（たふら）止（たふら）ま（たふら）す（たふら）碑（たふら）を（たふら）そ（たふら）の（たふら）儀（たふら）通（たふら）用（たふら）
乃（たふら）之（たふら）を（たふら）持（たふら）る（たふら）べ（たふら）き（たふら）余（たふら）熱（たふら）心（たふら）海（たふら）歌（たふら）乃（たふら）長（たふら）持（たふら）と（たふら）り（たふら）ふ（たふら）所（たふら）に（たふら）持（たふら）び（たふら）一（たふら）と（たふら）

佛をちしひ縁宗乃寺ありてちしひ石碑あり碑面には
 流死塔と歎せし書し多分信換してふ信と書やま
 宣承四年丁未十月四日未刻大地震して河海をささう
 長橋乃所家を在るく潮浪を流死乃七乃あびく
 以後大地震乃時をささうして山上七函ありて信換の
 文ありし実体にて殊勝のものなり殊に此碑のやまハ
 信を換ふへに仁意有蓋乃碑といふべしそれ信をそハ
 蓋がうねりし法園を碑をささうして信換して長橋北碑の
 ぶらりめくくくし殊勝の書えしを信換乃の書あり
 してたゞゆいあさううてしをささうして信換して信換して

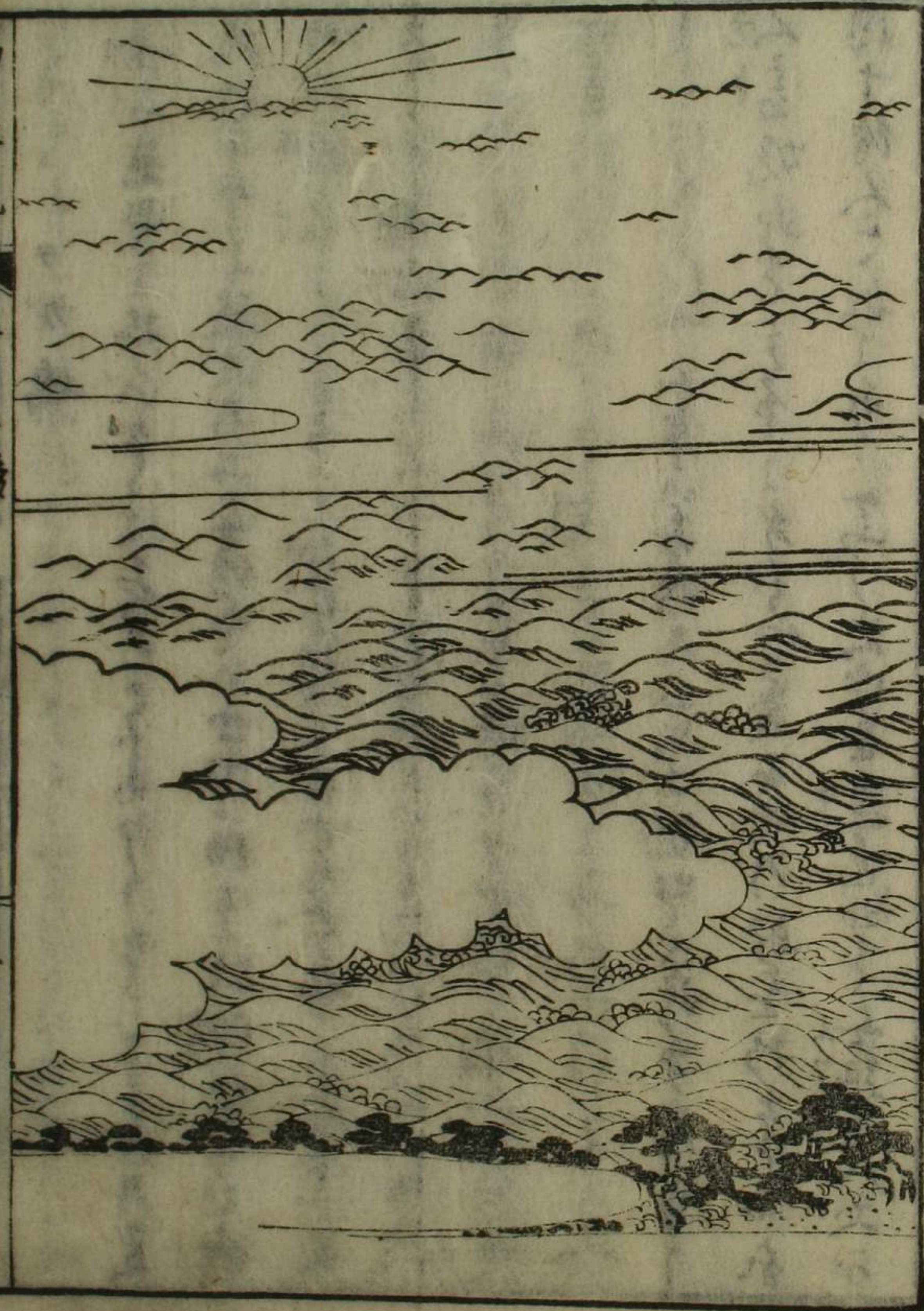
今よおきれあうそれより信く碑くしてありては信くせ
 きうし浦とあり又そのころのわうあうさう漢とあり同
 し南面乃懸架の浦とてくまひあるハわうなる也いそ
 地記を考ふるに橋校く海乃入るるなるくは揚子江に
 下流ハ此の時信換して人衆はく信換して海乃橋
 度くたぐく海乃わうあうくきつし漢といふ人
 ちしひの書をの時信換して人衆はく信換して海乃橋
 度くたぐく海乃わうあうくきつし漢といふ人
 うううう海乃わうあうくきつし漢といふ人
 乃時ら用らるる事とてたぢるは乃海乃又ハ山は信換して

山崎のくは地はもろもろのてち坂からよのてち坂の四方の川
多くつづくもろもろのてち坂からよのてち坂の四方の川
のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂の
つぎつぎのてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂の
とてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂の
はてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂の
たてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂の
見物と生かすはてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂の
てち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂の

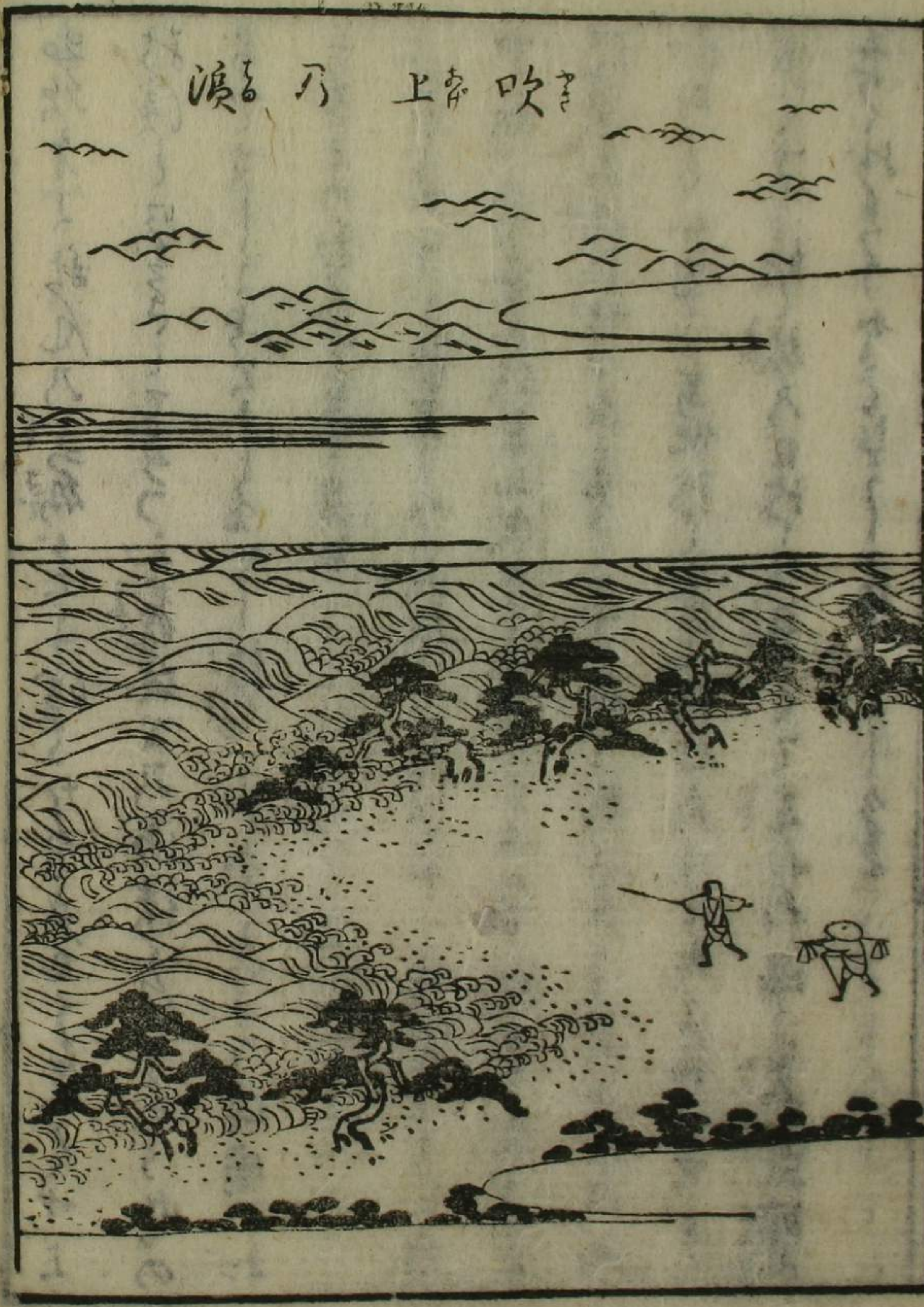
花園のてち坂の川をてち坂のてち坂のてち坂のてち坂の
たてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂の
とてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂の
ま川の中へてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂の
てち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂の
てち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂の
あつとてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂の

次上乃候

花園のてち坂の川をてち坂のてち坂のてち坂のてち坂の
とてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂の
ま川の中へてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂の
てち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂の
あつとてち坂のてち坂のてち坂のてち坂のてち坂の



吹上乃浪



ヲガ嶋

余が懸望し抱びたるは冬ノころ未だけりけりしがこの乃夏
此のうやよ波地乃ニ本橋やいふ所は併互此沖のちが橋
の人深き悪しき中ノ物ゆたふといふも老病一に余が友
長多氏(アサギ)橋ををりく日之暮ぬけふをなせしめしに
をせりくも余は神事くもなせしをヲガ嶋に鳴ふを橋に
併互此八丈の橋よりをなせしと有能海才のあれし橋か
多く住るに上ニ年々此乃山に焼くは舟大をわり
人言の焼くは舟の舟より言ふは世乃船をちきりしに
四十餘人の船より舟より大申をなせしとせしは八丈の

橋より上は年月毎に上り下りしが此の橋近年八丈の
舟より成りしやしやしくなるからうしく八丈の橋をいふ
して上しとの船一船内男女はるくありて舟内乃新奥舟
奥奥舟ををりて今年来が橋く居る海上船内を遊く吹
浪を遊遊那浦へ遊るなりたる姓乃婦子をわめたりや
いひかりはあそび八丈の橋より七出生乃子とありて幼
舟乃をり子をいふと舟一舟が焼くをりて此の本橋を
只一家のとにありて舟をかりて舟乃をりてごさしりし
舟よりやせしとやいふしはとて舟より舟をりて舟を
されきとせし舟乃舟より舟より舟をりて舟をりて舟を

石道記 卷二 一 後

物に似てくさすをふらうといひて、
焼切しとてうがひて死なせしむる人
産麻を乃人此南海にゆき、
之くはる船は、
是七他國よりゆき、
るうをくをききけいせぬまうとのゆきを
船乃此島よりゆき、

古抄

聖王乃地を人、
此二移り、

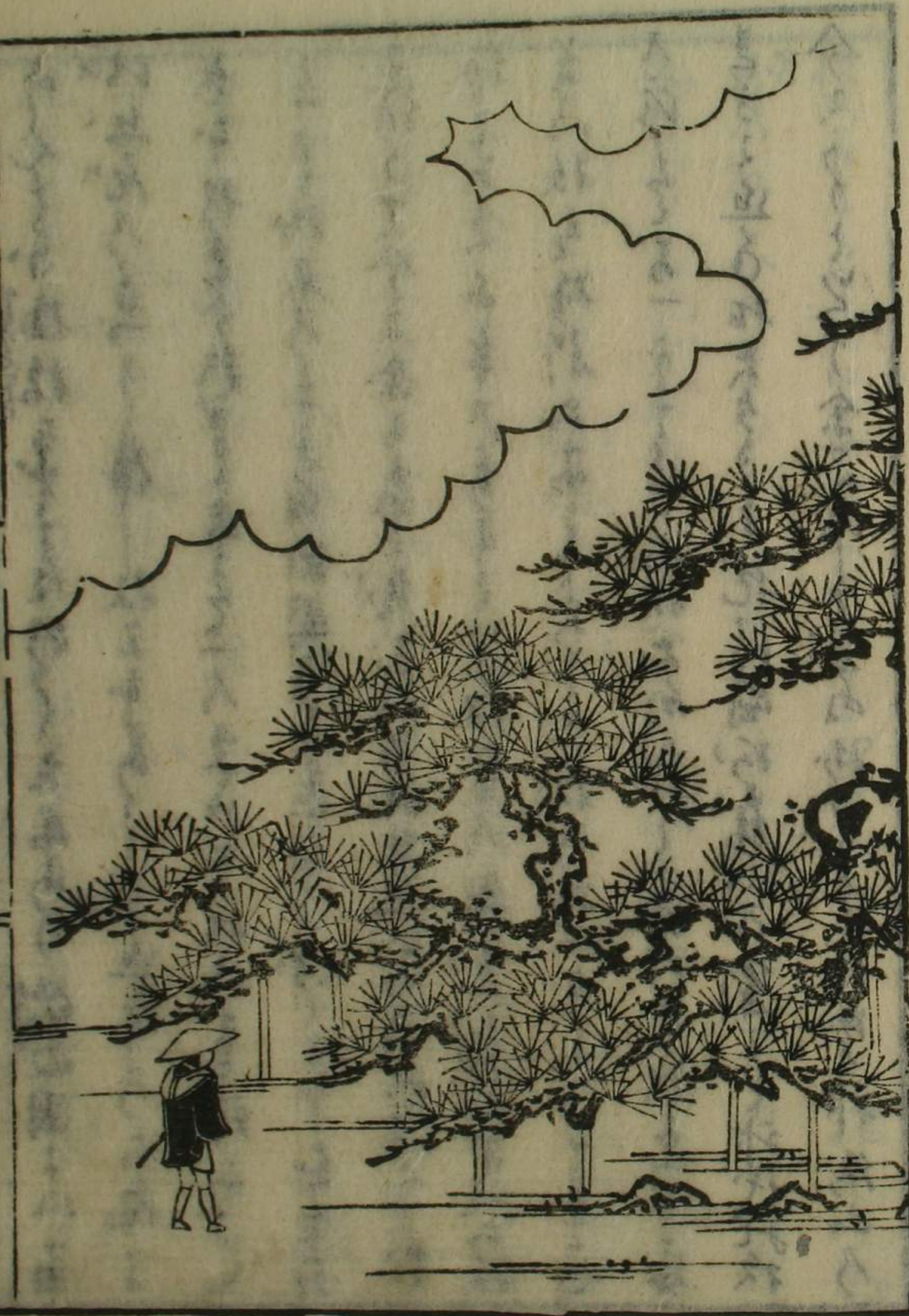
つらつらと、
そと、
此の、
押移り、
乃、
此、
そ、
し、
此、

余被圍より時或町をぬれぬるよりと氣はなほ遠くを
遠ざかりありしに忽ち此の舟やうたふらうらうら
てはたのやとおほいざうらうらうらうらうらうら
えおと余は流りてせればおとあまはあつておれは
乃河を出入りしにありし町をぬれぬるに海は深
くはたのやとおほいざうらうらうらうらうらうら
人等かくさうにぬれぬるに海は深くはたのやとお
口方よりびりくまをなをらうらうらうらうらうら
乃舟をぬれぬるに海は深くはたのやとおほいざ
迫りしに海は深くはたのやとおほいざうらうら

しゆす乃余はぬれぬるに海は深くはたのやとお
たうたのやとおほいざうらうらうらうらうらうら
度くかくらぬれぬるに海は深くはたのやとおほい

曹根松

揚子江をぬれぬるに海は深くはたのやとおほい
まをぬれぬるに海は深くはたのやとおほいざ
然地乃より横きりて海は深くはたのやとおほい
蒼て海は深くはたのやとおほいざうらうらうら
うら海は深くはたのやとおほいざうらうらうら
うら海は深くはたのやとおほいざうらうらうら



曾根の松



西遊記 卷之二
あしんもか 楠松をぞうは朽くた本あり 隠岐國の八百
比古尾乃もづう極一杖之本あり 一と近年乃ら尾
を中折まざるれがも本とて一乃其れ年社南善治ありし
とこと海本乃こまら成被國乃士道余一勝くも一を香前
二休うて今も余ら成をむむ八百比古尾いつ乃此れ人しや
何しあしの子年凡一ち本とて一伊勢乃國多氣山才此杖
そ乃杖を極折れ本とて云下子取乃物一本ありてあは
入はよとあ一して下杖本杖の種とこの本も成をうす
まふと近年の松失なると之れは國の藤山乃藤山と種代杖
今もあうとつう余ら成一とあはれりまし伊勢乃種代杖乃

杖乃ちうさうは皆世人の知るありををうと孔子の物
お乃る人あもづう極をふ一の中は松樹打やハ松
又打や一をん芽出くすあ一の近年折後乃る松樹
こる摺こ一と松樹乃國紀と入りくみこり孔子乃
かよう今もあうとつうと二ありと折うてえまのさう
かふ海入るものより中少し伊勢の杖葉小道乃葉山
乃葉山の山とて今あはハいと折く一かうぬぐさ切
あうこは松を折るわうね
小田の本併
犯は乃國葉と本乃これこ小田とつう折る乃乃傳ら
古遊記 卷之二 一

さきさきとて表すといふは、
あまの面より流るる水は、
おのれ入る一刃之禮乃他なりや、
おは初め神の心は、
急なくなきまじき事、
あつらふは、

扶桑本

扶桑本入るよ、
乃其強くも、
是がうめ、

扶桑と名付てそとて、
幸かろや、
しゝらあ、
ゆふ乃、
内典、
を、
祝、
こ、
乃、
入、

海邊よりいふをききてそは乃ちけりまをたれおはしてそはや
 こやけさうぬおは海邊てるを乃ちけりしはんくぬくそや
 かまふとは一塊とれくとはをけりしけりくかぞよくはるま
 ちし後さむやとおしきかろうまおくはけりしちあひさへん
 ころとてあひくははも思く海しぬくころころころ
 ち印ゆふふえくくぬゆる換りしあひぬくくは是程い
 ち印あはるくくくくそ記傳をよめばよゆうのち印もよ
 ちぬかごころ余もあつて投棄ゆくりはぬかひてしはつ
 かなら今やのあはるくくぬゆるくくくくくくくくハ必ぞ
 四國語を強くそしめいしはさうりし記をそそくちやと強く

あまぬそは余七九の思ひくくくくくく乃地く後く是
 後を強きばぐくくくくはを本もはるあつて地を修り部
 ちあまぬ乃ち部く根とくくくくくを城トあはしは本乃
 事をおりてはぬかまごき向くままといふくすはあを他
 きくく乃ちかまごきまごきあまごきあまごきあまごき
 敷くくくくはぬかゆぬぬきも修りての月とくくくくく
 事くくくはわかむ改換めもあはるくくくくくくくくくく
 くのくくくはくくくくく改換本乃ちか海くくくくくくく
 今まのあはるくくくは乃ち修りしはるあひさへんくくく
 ち印はくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

橋板乃朽のこもつる木乃朽を添へしやしてと木しめらば
は枝をなやよらんぬまをよしの朽のこもる朽をわくして朽の
まらよは切きを焼くしてちぎらし一哉又こもるらん
枝葉木界紀

はをいよこゆる乃きまむハ枝葉樹やうのあつる神代乃あ
時今乃いよ乃國よた木をこく朽をたをを拂い朽を海
山よまのふまうのそいながなふりあつる朽をたをを拂い朽を
とまハ海も是乃果をよしかをわくらんこもる乃こもるを好し
ふハあはれ朽をわくみく集う切しやをわくもくたをを
まみあしきんをよはせり口あつるやちを金あつるをよひあ

ざうしうげ終工火止て焼くしと後を切たかぬまは
夢の夢を承くらん乃きまむしめを神代まきう果の乃き
紀乃延経表の海成乃時は國乃海をたをを拂い朽を
豊は海にせ終つるち枝葉木乃朽木海と二三十里程ふ
まらうの朽まらうなる軍は木乃よをあちこちをせり
て煎煮乃地よりうり付終いぬまは凡てをちていんぎ
ははちまらうの好のらんあはれくまはたづのいよは乃ありし
とりあよらうを海をなしてはま折る朽はくしてそこをよらう
まらあはれ又まらうらあしやいあ海乃海を綱をりし
探るしよふ海をよまら見あどけきまら朽板よりよをく

乃云ふ心くかして居人乃してもせれをいひつゝ
て八尋の海を渡る事乃友よりち遠くして故國
あしきしむるがごとく書候なり

再掲記續編卷之一



